

教育目標 すこやかで きまりのよい子

三条市立三条小学校

TEL 33-0174 FAX 33-0248

E-mail [sansyo@city.sanjo.niigata.jp](mailto:sansyo@city.sanjo.niigata.jp)

<http://www.city.sanjo.niigata.jp/sansyo/>

第26-14号

平成27年1月13日



学校だより

山鳩

【1/8、3学期始業式を音楽室で実施。2年生の高野さん、星君の「めあて発表」(上)小林の話(中)全校校歌斉唱(下)】



めあて発表や私(小林)の話真剣に聞く子どもたち。

三小の素晴らしさは、この「子どもたちの表情」がすべて物語っています。

## I LOVE 三条

校長 小林 修

### = 「三条が誇りで、大好きな子どもたちの教育」の一層の推進を =

◆1月8日(木)、児童玄関でM先生を見つけたS子さんは「キッズニアに行ってね、キャビンアテンダントに、ビューティサロンに…色々やったんだよ。」と、冬休みの楽しい思い出を弾んだ声で聞かせてくれていました。S子さんばかりではありません。久しぶりの級友との再会、それも新年を迎えて初めての登校です。どの子どもの挨拶も、新たな年に「頑張るぞ」の意気込みが伝わる元気いっぱい嬉しくなりました。これからが本格的な寒さ、インフルエンザ等の流行する時期ですが、3学期は、一年の学習のまとめの大切な学期です。すべての子どもたちに確かな学力と、ふるさと運動やふるさと学習で、6年生から下学年に技や思いの伝承を確かに行い、「ふるさと三条が誇りで愛着を感じられる教育(I LOVE 三条)」を全職員で、全力を挙げて推進をして参ります。保護者・地域の皆様からも、これまで同様に、大きなご支援ご協力を頂きますようお願いをいたします。

### 「春木屋理論」は、三条小学校そのものです。

◆さて、今年も地元新聞が元旦特集号で県央地域の政財界のトップの方に「ことしの抱負」を聞いており、この中で、国定三条市長が一番の紙面を割かれて平成27年度にける思いを多方面からの施策で述べていました。そして、この抱負の最後に、「政策がすべて27年度のためだけにあるのではなく、2030年、2040年に向け、安定したゴールを見越したうえでの施策展開を構築していきます。…ラーメンファンには有名な春木屋理論があるんですね。それは、『いつ来ても変わらないおいしい味は、本当は味が変わっていないのではなく、常に進化しているからこそその味である』というもの。しにせとは伝統の味を守り続けるのではなく、いつまでも飽くなき探究心を求め続ける姿勢、それを静かに継承するという考え方なんです。このことは行政の日々の業務、政策執行、政策立案にも当てはまること。…」と、ラーメン通の国定市長が、三条市のあり方を東京荻窪の老舗ラーメン店「春木屋」になぞられて語っていました。この記事を読み、「春木屋理論」は、今年で創立143年目を迎える私も三条小学校そのものの姿であると強く感じました。三条小学校は時代とともに、三条市の中で、学校の果たすべき役割を少しずつ変えて進化し続けている(「三条小学校理論」と、私は思います。(裏面に続く))

【 1/13(火)今年初めての「お話バスケットさん」による読み聞かせ。プロは子どもたちを絵本の世界に引き込んでくれます。】



(表面続き) 具体的には、明治・大正・昭和初期は三条町の中で唯一の小学校、高等小学校として存立して、女学校(現三条東高校)等も三条小学校とともにあった。(分離独立前は、三条小学校長が兼務で校長をやっていた。)大正期は一ノ木戸村、裏館村等の合併により、昭和11年までは一ノ木戸小学校・裏館小学校・四日町小学校を統合しての三条小学校であった。この時代、三条に住む全ての子どもが三条小学校で学んだ。(裏館小学校は昭和11年に三条小学校から分離し、今年で80年を迎える。)戦後、2,000人を超える県内でも、稀な超大規模校で「周年記念式典」に県知事がやってきた。様々な研究会の実施や特別支援教育で、県内の小学校教育をリードしてきた。昭和50年代からは「ふるさと運動(教育)」の推進で『三条が誇りで大好きな子どもたち』の育成を目指した。そして、平成に入り児童数は減ってきて小規模校になったが、一人ひとりを大切にすレベルの高い教育で、大規模校等で集団生活が心配な子どもたちの受け入れや特別支援教育の中核をなす学校として取り組んだ。特に言語教室1学級で始まった通級学級が、現在は言語2、難聴1、発達1の合計4教室で、年間100人程が通って来る。(この数は三条小学校在籍児童87名を上回る数。)これは、各学校で、この教育の指導を必要とする子どもが増えていることが要因の一つですが、三条小学校が市内の真ん中にある学校だから、市内のどこの学校からも僅かな時間で通って来られることが大きな要因です。(利便性が高い。)

そして、このような変遷をたどりながら、三条小学校が進化しているのは、『常に、ここに勤務する教職員が、三条小学校に勤務できることに喜びと誇りを持ち、質の高い教育活動を(今年もNIE研究指定校で研究実践に励んでいます。)、保護者・地域の皆様の大変に大きな協力を得ながら行っているからだ』と、私は強く思うのです。

今、少子化社会の中で、中学・高校でキャリア教育の充実や地元に住み続けてもらう様々な取組を国も県も進めておりますが、三条小学校の地域の皆さんの素晴らしい協力の中で、『まちなか』だからこそできる教育。低学年から学年相当の内容で繰り返し行われる地域学習や、6年生で中学生なみの学区事業所への職場体験学習の実施、さらには三条祭りや三条夏祭りへの学校をあげての参加等で、三条を全身で学ぶことで、三条が大好きで誇りに思う子どもたちが育まれているのです。これからも、143年の伝統の上に、保護者や三条市民の求める教育を推進していきますので、ご支援ご協力をよろしくお願いをいたします。

#### 小林の抱負、決意・・・小さいか。

◆12月24日(水)は、2学期の終業式でした。インフルエンザが流行り出していて、「終業式に、みんな来てくれるだろうか。」と不安の気持ちで、児童玄関で待っていると、6年生のK子さんが1年生のN子さんに「私、今日誕生日で12歳になったのよ。いいでしょう。」って、誇らしげに話していました。「K子さん、若いっていいなあ。」って、本心で思ってしまいましたが、私は今年、5回目の年男です。そうです。還暦を迎えるのです。気持ちでは、子どもたちに負けないなどと思っても体は十分に年寄りです。「健康に気を付けた生活をする」と新年の決意をしました。今年は運動を心がけて生活をしていきます。子どもたちの抱負からみると小さいですかね。

【1/9(金)「全校書き初め大会」を実施。6年「早春の風」を書き全員で記念写真(左・中)、2年硬筆真剣に取り組む藤川君(右)】

